

茶葉を年6回宅配、茶摘み体験案内…

茶畑オーナー制度が人気

募集1カ月で 申し込み120人



和東の若手農家グループ考案

茶畑一坪(約三・三平方尺)分の茶葉を年六回宅配し、茶摘みや植樹体験の案内も行う「茶畑オーナー制度」を、和東町の若手茶農家グループ・京都おぶぶ茶苑(喜多章浩代表)が考案した。昨年末の募集開始から約一カ月で、約百二十人が申し込み入りとなった。

同茶苑は五年前に三内外の消費者に直売し、茶摘み体験の案内も行う。町内各地の茶畑計一・五畝を借り、主にインターネットで注文を受けて、国十軒を使い、消費者一円で、干し梅や金粉入

オーナー制度で1区画となる約3・3平方尺分の茶畑を示す京都おぶぶ茶苑の喜多代表(左)と松本さん(和東町石寺)

りの大福茶を元日に届けるのをはじめ、煎茶などを年六回、各二百円発送。茶畑の写真も絵はがきで送る。ただ、茶葉は加工時に混ざるため、区画分とは限らない。オーナー向けに農作業体験や、かやぶき古民家の開放も企画する。

代金は生産原価と店頭価格の中間。消費者には割安感があり、グループにとっては苗木の植樹代を賄い、消費者の好みや反応をじかに知るメリットがあるという。

「実家の母あてに届ける」など全国からオーナーの応募があり、同茶苑の松本靖治さん(34)は「誰かのために良いモノを作るといふ農業の基本に立ち返り、消費者も参加意識を持てる新しい仕組みが評価されてい

るのでは」と話す。問い合わせは京都おぶぶ茶苑 ☎(78) 2911。(石崎立矢)